シモツケとオオバコ

勇払郡早来町　山　木　正　五

1．シモツケ

私はシモツケの淡紅色の花が好きで、庭に植えて楽しんでいます。

十数年前に独り暮らしになって、毎朝仏華・仏飯を供えてお参りをしています。

シモツケの花時には、好んでシモツケの切り花を供えています。

ある朝、シモツケの花一面に白い花粉が浮き上がって、霜を着けた様になっているのに気が付きました。

シモツケの名称の由来はこれから生まれたのだと思いました。

庭に咲いている花では、あまり気にしていなかっのですが、薄暗い仏壇に供えられると多数の雄しべに付いた花粉が風に散らされる事もなく判然と解ったのです。その名がピタリと合うとおもえました。

それから興味を持って植物図鑑を引いて見ました処、手持ちの図鑑は意に反して下野の国（今の栃木県）で最初に発見されたので名ずけられたとありました。本邦中部以南に広く分布していると言うシモツケの和名が（下野）に由来しているのは少し異様な気がします。

なお、シモツケに縑線菊の漢字が当てられています。

2．オオバコ

それは65年程前の昔の事で、私の少年時代の記憶でありますが、何かで車前草と書いてオオバコと読ませているのを見て不審におもった事がありました。あるいはオオバコと書いて車前草と読ませていたのかも知れません。

父親にその訳をきいたところ、山野を歩いていて道を見失った時に、オオバコを見つけてそれに添って歩くとまた道に出る事が出来るとの事でした。

オオバコの種子は、鞋などの履物に着いて運ばれる増殖の知恵で、道に沿って増えてゆくのだとの事でした。

旅人などが道標として利用できたので、車前草の名があると教えて私の好奇心を満たしてくれました。

その後、検証してみることもなく忘れていました。

「北方山草」第10号をいただいて、別刷りで添付されていました辻井達一先生のアルペン・フロラ一草原の遷移に関する考察④を拝見しているうちに、稿末のほうに「オオバコが毎年、高みへ、高みへと登って行って、ついに1,500 mの高さに達したのをみたことがある。」と記述されているのをみて成程と感じ、この年齢に達して始めて納得した次第でした。